様式第２号（その３）

授　業　科　目　の　概　要

看護学研究科看護学専攻

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護研究Ⅰ	看護の向上を図るために、基本的な研究のあり方と看護研究に関する理論と実際を探求する。専門職としての研究倫理観を身につける。	
	看護政策論	保健・医療・福祉など社会保障制度における動向を踏まえ、看護に関する制度や政策の内容の過程などを体系的に学修する。各々の専門領域の実践及び教育・研究に活用でき、政策提言できる能力を養う。	
	看護理論	看護学の理論体系の変遷を概観し、諸理論の構造と特徴について学ぶ。同時に、諸理論と看護現象との関係について探求し、看護における理論的基盤を養う。	
	看護教育論	看護教育の歴史的変遷について学び、専門職としての看護がどのように発展してきたのかを確認し、今後の看護の方向性を考察できる。また、現状の看護学教育の政策的な課題を明確にでき、自らが実践において取り組むべき課題を明らかにして具体的な教育実践活動に結び付けられる方法を考案できる能力を習得する。さらに、人間の教育が社会と密接に関連していること、教育課題の特徴やその原因について、社会状況を関連させながら考察していく。	
	赤十字看護特論	日本赤十字看護教育の歴史や、国内外で発生する自然災害、あるいは戦争等の危機的な状況に鑑み、平時からの備えや健康問題のアセスメント、および支援に関わる能力を学部教育に積み上げ探求する。	
	英文講読	本講座は、学究に向けての一般的な英語理解力および読解力を高めるために、英語のリーディング＆ライティング・スキルの全般的な底上げを望む学生を対象とする。特に、学際的な読み物、内容構成、論理構造、および、リーディング・レートに重点を置く。受講者は、辞書を使いこなすための一般的なスキルと読解速度のスキルも向上できる。	
	情報科学特論	Excelを用いた図表作成、およびSPSSの使い方等教授し、大学院教育における情報機器環境へ学生が適応できるよう演習科目を置く。	
	心理学特論	臨床心理学を基盤に、医療の対象となる可能性のある人々への心理学的援助や予防に関する内容を教授する。	
共通専門科目	コンサルテーション論	看護におけるコンサルテーションは、相談者（コンサルティ）の能力を把握しながら必要な支援を実施していくプロセスであり、高度実践看護を展開するうえで、重要な機能の一つである。そのため、コンサルテーションの実施に向けた理論・概念を理解し、高度実践看護者としてコンサルテーションを展開するための実践的技術を習得する。	
	看護倫理	医療技術の進歩や少子高齢化に伴い複雑化する看護活動における患者・家族と医療者間で生じる倫理的な問題に対応する実践力を培うために、事例をもとに倫理的な葛藤について分析し、介入計画を立てることができる。	
	フォレンジック看護特論	暴力・虐待・犯罪・事故・人為災害に遭遇した方に、法医学的知見を活かし人権擁護の立場から看護師としてかかわるために、高度な実践の基となる法医科学の理論を理解し、対象の健康回復や公衆衛生の向上に努めるフォレンジック看護ケアに必要な知識と技術を習得する。	
	臨床診断学	複雑な健康問題の発生や病状の予測を超えた変化に対応して、臨床診断と看護介入の根拠となる臨床推論を実施するために、必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を習得する。	
	病態生理学	１）人体の正常な状態を生理学的に理解する。 ２）上記の理解を基礎として、実際の病態を生理学的に解明する能力を習得する。 ３）実際の臨床症例を多方面から観察し、病態を生理学的に解明する訓練をする。	

共通専門科目			臨床薬理学	薬物療法に対する看護展開に必要な薬理学・臨床薬理学を学習する。 本講義では，代表的疾患の薬物療法を取り上げ，「対象疾患に関連した生理・病態生理の知識を活用して使用薬物の作用機序を理解し，具体的な看護展開に結びつける」という一連の思考方法の習得を目的とする。	
			感染看護学特論	生活者の QOL と患者の医療の質を大きく損なう感染から看護の対象を守るため、病原体に関する疫学的知識を身につける。	
専門科目	基盤看護学分野	看護管理学	看護管理学特論Ⅰ	組織運営に関する諸理論及び組織における人間の行動に関する理論を学習し、看護の実践の場における看護マネジメントとリーダーシップのあり方を検討する。高度な看護ケアの提供のために、求められる看護管理者及び施設内外の多職種との連携や調整、安全管理等、質の高い看護を効率的、効果的に提供するための看護管理のあり方を探求する。	
			看護管理学特論Ⅱ	組織を構成するのは個人であり、良質な看護サービスの実現は看護職一人ひとりの資質に深く関係する。本授業では、キャリアに関する理論や概念を学習し、看護職の臨床実践能力の発達段階を検討しながら、看護職員のキャリア開発システム化に必要とされる教育および組織環境について探求する。また、日本におけるＣＮＳの導入背景を概観し、医療現場の看護職の役割拡大における課題とＣＮＳの効果的な活用モデルを探求する。	
			看護管理学演習	学生の関心領域に基づいてテーマを選定し、良質な看護サービスを効果的、効率的に提供するための看護管理上の課題を検討、個人と組織、質保証の観点から、課題解決をめざしたマネジメントを探求する。	
	成育看護学分野	母子看護学	成育看護学特論Ⅰ	個人のライフプランの選択によりそった母性・父性および子どもの成長発達に関する専門的なケアと健康教育の学びを深める	
			成育看護学特論Ⅱ	社会の変遷によって生じる虐待、片親、子どもの貧困等の健康問題に対する専門的ケアの学びを深める。	
			成育看護学特別演習	NICU、障害児施設等における支援の特徴について、理解を深め実践能力及びマネジメントの実際を学ぶ。	
		助産学	助産学概論	助産学の基盤となる概念および理論を理解するとともに、対象の理解を深めるための基本的知識を学習する。助産の意義、助産師の身分と法的責任、助産師の機能と役割、国内外の母子保健行政の変遷と現状、母子保健関連法規、助産の変遷、助産の文化と歴史、助産師教育、生命倫理、助産倫理について学習し理解を深める。	
			リプロダクションに関する形態機能	助産領域の診断とケアに必要となる性と生殖の形態と機能について学習する。特に性と生殖に関する形態・機能については、解剖・生理、性行動と機能を学習し、遺伝と遺伝性疾患、生殖補助医療技等について学ぶ。	
			ウィメンズヘルス論	リプロダクティブヘルスに関する健康課題をもつ女性とその家族を援助するために必要な看護実践と女性の生涯発達と健康問題について学習する。女性とその家族の健康を中心においたケアの概念、家族計画、受胎調節法、またプレコンセプションケアの概念と実際および健康教育のあり方について学習する。 リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、ウィメンズヘルス、ジェンダー、性差医療の変遷と女性医療のあり方、女性各期の特徴を理解し、その健康と看護援助方法や、女性特有の疾患およびそれに罹患した女性の健康援助方法について学習する。	
			妊娠分娩進行に伴う検査・診断・技術	助産診断に必要な超音波診断装置および分娩監視装置の原理、使用法を理解し、妊娠中の胎児の健康状態をアセスメントできる。また、分娩経過における胎児の健康状態をアセスメントし、産婦の分娩経過を助産診断することができる実践的な技術を身につけることができる。	
			助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期・産褥期)	妊娠の成立と妊娠期から産褥期の経過に関する基礎的知識を習得する。妊娠期から産褥期の正常経過や健康問題をアセスメントし、助産診断およびケアを行うために必要な知識と技術を習得する。	
			助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)	助産診断・技術学Ⅰに引き続き、課題事例の助産過程の展開を通して、分娩期の助産実践に必要な基礎的能力を養う。また、技術演習を通して、産婦の産む力を引き出すための様々なスタイルでの分娩介助技術や会陰裂傷など、分べん期の実践に欠かせない知識や助産師の業務拡大に向けた技術を習得する。	

専門科目	成育看護学分野	助産学	助産診断・技術学Ⅲ(新生児期・乳幼児期)	新生児および乳幼児の正常経過に関する基礎的知識を習得する。新生児期および乳幼児期の正常経過や健康問題をアセスメントし、助産診断およびケアを行うために必要な知識と技術を習得する。	
			周産期ケア	妊婦、産婦、褥婦・新生児の助産診断に必要なフィジカルアセスメント技術、および分娩介助に必要な技術を習得する。助産診断では、妊娠・分娩・産褥期の各期の対象の健康問題をウェルネスの視点からアセスメントし、助産過程を展開するプロセスを学ぶ。	
			周産期の保健指導	助産診断・技術学で習得した知識を用いて、妊婦・産婦・褥婦・新生児の健康診査を実施し、妊産褥婦とその家族に必要な健康教育を行うための保健指導技術を学ぶ。また、妊婦とその家族に対し、学級活動の企画運営をする。	
			周産期の異常	医療介入を要する妊産褥婦の健康問題をアセスメントし、周産期の異常に関する基礎的知識と助産ケアを習得する。特に分娩時の緊急処置の技術について学び、助産師としての最新の知識並びに緊急時への対応ができる手法を身につける。	
			国際・地域母子保健	国内外の母子保健行政の変遷と現状、諸外国の助産師の動向と役割を学び、母子の健康をグローバルな視点から考える。地域で生活する社会的ハイリスク（在留外国人等）の方の多様性の理解、地域全体の母子保健の推進という観点から探求する。 また、地域における母子保健を推進するための基本的知識、子育て世代包括支援センターの推進、保健・医療・福祉機関との調整を主導する能力を習得する。	
			助産管理・経営論Ⅰ	助産業務の管理・運用に必要な基本的概念、および他職種との連携のための調整やコンサルテーションならびにマネジメント等、基礎的能力習得のための知識を習得する。助産に関連した医療政策の概念、基礎知識と政策立案のプロセスについて理解できる。主に病院、診療所における様々なリスクマネジメント（医療事故、感染予防、災害時）の必要性が理解できる。	
			助産管理・経営論Ⅱ	助産所における母子の具体的な助産ケアサービスおよびその管理を理解する。助産開業マニュアル、助産業務ガイドラインに沿った運営、様々なリスクマネジメント（異常の早期発見と適切な時期の照会・緊急搬送等、災害時）の必要性を理解できる。	
			助産学実習Ⅰ	助産に関する基礎的知識と技術をいかし、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児のケアに必要な助産診断を行い、それに基づいて対象に応じた妊婦健康診査、分娩介助、健康教育などの実践を行う。 分娩介助は10例程度行い、そのうち１例は妊娠期・分娩期・産褥期（産後4か月）を通して対象を受け持ち、必要なケアを実践しプライマリーなケアの重要性を学ぶ。	
			助産学実習Ⅱ	保健所、保健センターおよび子育て支援等の実際を学び地域における助産師のケアや他職種との連携のありかたを学ぶ。また、母子保健領域におけるコーディネーターとしての役割を考え理解を深める機会にする。	
			助産学実習Ⅲ	助産所の分娩管理を含めた多様な機能と役割、助産システム、マネジメントの実際を理解する。助産所における助産ケアの実践を通して理解を深める。	
	健康療養生活支援看護学分野	成人看護学	成人看護学特論Ⅰ	臨床実践における多様な現象を捉えるための重要な哲学・概念・理論について、幅広い分野から造詣を深める。	
			成人看護学特論Ⅱ	臨床実践における自らの見方を問いなおし、新たな視座で臨床実践を評価できるための方略を探究する。看護に留まらず学際的な見識や先行研究から、受講者の関心・志向を拡張させ臨床実践が成熟することを目指す。	
			成人看護学演習	患者とその家族を対象に研究成果を適用した看護実践を行うために、学際的な見識や先行研究から患者経験や看護実践の意味を探究する。 探究の過程で、自己の研究疑問に関連する国内外の先行研究を文献検討し、研究テーマと研究目的・意義、研究方法を明確化し、研究計画書を作成する。	

専門科目	健康療養生活支援看護学分野	がん看護学	がん看護学特論Ⅰ (理論編)	がん患者とその家族を対象に高度な看護実践を行うために、がん看護の基盤となる概念と主要理論について理解を深めるとともに、実践および研究への活用方法について探究する。	
			がん看護学特論Ⅱ (病態生理学)	多様な症状・徴候を呈するがん患者を対象に根拠に基づいた看護を行うために、がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理学全般を学び、最新の診断・治療に関する専門的知識を深め、看護支援について探究する。	
			がん看護学特論Ⅲ (援助論)	がん患者の複雑な健康問題に対して、包括的な看護支援を行うために、実践的な看護援助の方法を探究する。	
		老年看護学	老年看護学特論Ⅰ（理論編）	老年看護を専門として活動する基盤をつくるために、老年看護の諸理論、倫理、専門看護師の役割・機能について学ぶ。	
			老年看護学特論Ⅱ（包括的アセスメント）	高齢者の複雑な健康問題に適切に対応するために、高齢者の身体的・精神的・社会的側面の包括的アセスメントについて学ぶ。	
			老年看護学特論Ⅲ（老年医学）	高齢者の健康レベルに応じた生活の質の維持・向上を目指した支援をするために、老年期に起こりやすい疾病や老年症候群の治療・検査・薬物療法の理解を深める。	
			老年看護学特論Ⅳ（援助論）	高齢者とその家族が尊厳のある生活を送ることができるよう看護活動を展開するために、高齢者と家族への倫理的な判断を含む高度な看護実践を行う方法について理解を深める。	
			老年看護学特論Ⅴ（高齢者保健医療福祉政策とサポートシステム）	高齢者とその家族が健康的で質の高い生活を送ることができるよう切れ目のない支援を提供するために、グローバルな視点を含んだ日本の高齢者保健医療福祉制度、政策の現状、高齢者のサポートシステムの組織化と活用について理解を深める。	
			老年看護学演習Ⅰ	高齢者とその家族を対象に、研究成果を適用した高度な看護実践を行うために、老年看護学における概念・理論を基盤とした看護のエビデンスを探究する。この探究の過程で、看護実践の批判的考察と文献レビューの方法論を習得する。また、急性期にある身体的治療を要する高齢者に安心、安全、納得できる治療と入院生活、さらには退院支援を行うために、急性期医療の実際を知るとともに課題解決のための方法論を探究する。	
			老年看護学演習Ⅱ	高齢者とその家族を対象に、研究成果を適用した高度な看護実践を行うために、老年看護学における概念・理論を基盤とした看護のエビデンスを探究する。この探究の過程で、看護実践の批判的考察と文献レビューの方法論を習得する。演習Ⅱでは、認知症をもつ高齢者とその家族へ研究成果を適用した高度な看護実践を行うために、認知症の原因疾患、治療、看護実践などについて最新のエビデンスを学び、地域包括ケアシステムにおける認知症看護の課題解決のための方法論の探究に焦点をあてる。	
		精神看護学	精神看護学特論Ⅰ (精神看護理論)	精神看護領域において専門的な看護ケアを実践するための基盤となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を高める。	
			精神看護学特論Ⅱ (精神・身体状態の評価)	精神科における診断や評価について理解を深め、精神看護専門看護師として高度な実践の基盤となる精神・身体状態の評価に関する理論と方法を習得する。 精神的な問題が、認知、感情、行動、身体、対人関係など様々な面に影響を及ぼすことを理解し、精神状態、精神の健康度を評価する方法と援助技法について探究する。	
			精神看護学特論Ⅲ (精神科治療技法)	精神看護専門看護師として、卓越した看護実践を展開する上で必要となる精神科治療に関する理論や技術を習得する。また、看護場面における精神科治療技法の活用について探求する。	
			精神看護学演習Ⅰ (援助技法)	精神看護専門看護師の役割と機能について理解し、精神的問題を抱えた人や家族、集団に対してケアとキュアを統合した高度な看護実践を展開するために必要な援助技法を習得する。	
		地域共生看護学	地域共生看護学特論Ⅰ	地域で生活する人々が、安心して自分らしく生活するための予防的視点を含めた地域包括ケアシステムや制度の現状、これらの基盤となる地域・在宅看護実践に必要な知識や概念・理論を理解する。また、社会の動向および地域特性を踏まえ多角的な視点から行う地域診断をもとに、地域包括ケアシステムの中で機能する地域・在宅看護実践の現状と課題および課題解決のための看護アプローチを探究する。	

専門科目	健康療養生活支援看護学分野	地域共生看護学	地域共生看護学特論Ⅱ	在宅療養者と家族を理解する概念や理論、モデルを学び、その適用と限界について考察する。また、療養者と家族を取りまく保健医療福祉制度や地域・在宅看護実践の現状と課題について探究し、地域・在宅看護の質向上に向けた方略について検討する。	
			地域共生看護学演習	本科目では、地域共生看護学領域における概念・理論を基盤とした看護実践のエビデンスを探究する。その探究の過程で、地域共生看護学領域における自己の研究疑問に関連する国内外の先行研究を文献検討し、研究テーマと研究目的・意義、研究方法を明確化し、研究計画書を作成する。	
	高度実践看護学分野	がん看護	がん看護学特論Ⅰ (理論編)	がん患者とその家族を対象に高度な看護実践を行うために、がん看護の基盤となる概念と主要理論について理解を深めるとともに、実践および研究への活用方法について探究する。	
			がん看護学特論Ⅱ (病態生理学)	多様な症状・徴候を呈するがん患者を対象に根拠に基づいた看護を行うために、がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理学全般を学び、最新の診断・治療に関する専門的知識を深め、看護支援について探究する。	
			がん看護学特論Ⅲ (援助論)	がん患者の複雑な健康問題に対して、包括的な看護支援を行うために、実践的な看護援助の方法を探究する。	
			がん看護学演習Ⅰ (がん薬物療法看護)	がん薬物療法を学ぶことで、患者と家族が納得して治療を選択できるような意思決定支援、日常生活と治療を両立できる様なセルフケアを含めた予防対策と精神的支援、セルフケア能力の維持向上や有害事象について包括的にアセスメントし支援できるような能力を養う。	
			がん看護学演習Ⅱ (緩和ケア)	苦悩を抱える患者の支援をするために、様々な症状の発現機序やその緩和方法について理解する。また、西洋医学のみならず東洋医学的視点も加味して患者の全体像を包括的に把握することを学ぶ。 病いの体験を聴くことで患者・家族の理解を深め支援方法について理解する。 緩和ケアにおけるCNSの実践能力を身につけるためにCNSの役割や具体的介入について理解する。	
			がん看護学実習Ⅰ (CNSの役割実習)	１．がん看護専門看護師に同行し、がん専門看護師としての諸活動が行われている場への主体的な参加を通し、その役割（特に調整、倫理調整、教育、相談）と機能を理解する。 ２．専門看護師の役割を担うための自己の課題を明確にし、課題解決に向けた対処に結び付ける。	
			がん看護学実習Ⅱ (がん治療管理実習)	１．ケアとキュアを融合した高度な看護実践能力を培うための方略の一つとして、腫瘍内科医の指導のもとに、臨床判断能力や実践力を磨く。特にサブスペシャリティとして、がん薬物療法看護と緩和ケアにおける臨床判断や実践力を強化する。 １）がん薬物療法に関する臨床判断や実践力 ２）緩和ケアに必要な臨床判断能力と実践力	
			がん看護学実習Ⅲ (在宅がん看護実習)	１．在宅を視点とした医療連携チームとの連携のあり方について、自己の課題とその解決方法を明確にする。 ２．在宅療養中のがん患者･家族に必要とされている臨床判断能力や実践能力の基礎を、在宅訪問看護実習を通して習得する。 ３．在宅療養中の患者・家族の生活の実態について把握し、実習Ⅰ・Ⅱの経験を生かして高度実践のための介入計画を提言、実施、評価する。	
			がん看護学実習Ⅳ (高度実践実習)	共通科目、専門共通科目、がん看護学特論・演習、がん看護学実習ⅠからⅢの総まとめであり、すべての学びの集大成としての位置づけにある実習である。 １．サブスペシャリティであるがん薬物療法看護と緩和ケア領域において、キュアとケアを融合した高度な看護実践能力を強化する。 ２．サブスペシャリティ領域で、特にCNSとして教育、相談の役割開発の基礎を習得する。 ３．がん看護学実習の総まとめとして、実習ⅠからⅢまでの間で達成不十分と思われる役割（特に調整・倫理調整等）がある場合には、積極的にそれらの役割についても実践する。	

専門科目	高度実践看護学分野	老年看護	老年看護学特論Ⅰ（理論編）	老年看護を専門として活動する基盤をつくるために、老年看護の諸理論、倫理、専門看護師の役割・機能について学ぶ。	
			老年看護学特論Ⅱ（包括的アセスメント）	高齢者の複雑な健康問題に適切に対応するために、高齢者の身体的・精神的・社会的側面の包括的アセスメントについて学ぶ。	
			老年看護学特論Ⅲ（老年医学）	高齢者の健康レベルに応じた生活の質の維持・向上を目指した支援をするために、老年期に起こりやすい疾病や老年症候群の治療・検査・薬物療法の理解を深める。	
			老年看護学特論Ⅳ（援助論）	高齢者とその家族が尊厳のある生活を送ることができるよう看護活動を展開するために、高齢者と家族への倫理的な判断を含む高度な看護実践を行う方法について理解を深める。	
			老年看護学特論Ⅴ（高齢者保健医療福祉政策とサポートシステム）	高齢者とその家族が健康的で質の高い生活を送ることができるよう切れ目のない支援を提供するために、グローバルな視点を含んだ日本の高齢者保健医療福祉制度、政策の現状、高齢者のサポートシステムの組織化と活用について理解を深める。	
			老年看護学演習Ⅰ	高齢者とその家族を対象に、研究成果を適用した高度な看護実践を行うために、老年看護学における概念・理論を基盤とした看護のエビデンスを探究する。この探究の過程で、看護実践の批判的考察と文献レビューの方法論を習得する。また、急性期にある身体的治療を要する高齢者に安心、安全、納得できる治療と入院生活、さらには退院支援を行うために、急性期医療の実際を知るとともに課題解決のための方法論を探究する。	
			老年看護学演習Ⅱ	高齢者とその家族を対象に、研究成果を適用した高度な看護実践を行うために、老年看護学における概念・理論を基盤とした看護のエビデンスを探究する。この探究の過程で、看護実践の批判的考察と文献レビューの方法論を習得する。演習Ⅱでは、認知症をもつ高齢者とその家族へ研究成果を適用した高度な看護実践を行うために、認知症の原因疾患、治療、看護実践などについて最新のエビデンスを学び、地域包括ケアシステムにおける認知症看護の課題解決のための方法論の探究に焦点をあてる。	
			老年看護学実習Ⅰ	急性期にある複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族を支援するため、包括的アセスメントに基づき、キュアとケアを統合した高度な看護を実践できる能力を身につける。専門看護師として取り組むべき自己の課題を明確にするため、老人看護専門看護師としての教育、相談、研究、調整（倫理調整含む）を指導者とともに実践し、理解を深める。	
			老年看護学実習Ⅱ	多様な場で生活する認知症をもつ高齢者とその家族を支援するため、認知症看護の専門知識と技術を基盤とした包括的アセスメントに基づき、ケア提供者とともに高度な看護を実践できる能力を身につける。老人看護専門看護師としての自己課題の達成度と今後の課題を明確にするため、教育、相談、研究、調整（倫理調整含む）を実践する。	
		精神看護	精神看護学特論Ⅰ （精神看護理論）	精神看護領域において専門的な看護ケアを実践するための基盤となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を高める。	
			精神看護学特論Ⅱ （精神・身体状態の評価）	精神科における診断や評価について理解を深め、精神看護専門看護師として高度な実践の基盤となる精神・身体状態の評価に関する理論と方法を習得する。 精神的な問題が、認知、感情、行動、身体、対人関係など様々な面に影響を及ぼすことを理解し、精神状態、精神の健康度を評価する方法と援助技法について探究する。	
			精神看護学特論Ⅲ （精神科治療技法）	精神看護専門看護師として、卓越した看護実践を展開する上で必要となる精神科治療に関する理論や技術を習得する。また、看護場面における精神科治療技法の活用について探求する。	
			精神看護学特論Ⅳ （精神医療の歴史・法制度）	複雑で解決困難な問題を抱える対象および家族への高度な看護実践に活用していくために、精神保健および医療や福祉に関する制度を理解し、その活用について習得する。 精神保健医療福祉における課題を明らかにし、専門看護師として政策提言を検討できる能力を養う。	
			精神看護学特論Ⅴ （慢性期精神看護）	慢性期にある精神疾患の患者の状態を理解し、社会生活機能の回復とその人らしい人生に向けた看護支援を展開するための理論や方法を習得する。 長期入院や社会的入院の現状について理解し、その予防や改善に向けた看護の役割について探求する。	

専門科目	高度実践看護学分野	精神看護	精神看護学特論Ⅵ (司法精神看護)	精神看護の専門看護師として、司法精神医療分野への理解を深め、心神喪失者等医療観察法における対象者や家族へ高度な看護実践を展開するために必要な理論と方法を習得する。	
			精神看護学演習Ⅰ (援助技法)	精神看護専門看護師の役割と機能について理解し、精神的問題を抱えた人や家族、集団に対してケアとキュアを統合した高度な看護実践を展開するために必要な援助技法を習得する。	
			精神看護学演習Ⅱ (精神科治療技法)	精神科治療技法を踏まえた精神看護の多様な支援方法を学び、専門看護師としての実践に活用していくための基盤を創るとともに、新たな支援の可能性についても探究することができる。 多角的な視野に立ち、援助者としての自己を振り返りながら、看護ケアを創造することができる。	
			精神看護学実習Ⅰ (専門看護師の役割機能実習)	精神看護専門看護師の活動への参加観察を通して、実践、相談、調整、倫理調整、研究、教育など専門看護師の役割と機能について学習し、自己の課題を明らかにする。	
			精神看護学実習Ⅱ (精神科診断・治療実習)	精神科病棟入院の患者を複数受け持ち、精神科における診断や治療場面に参加観察しながら、精神科医師や精神看護専門看護師の指導のもとで、精神科診断や治療、精神状態の査定や臨床判断についての基礎的能力を養い、直接ケアを展開する。	
			精神看護学実習Ⅲ (直接ケア実習)	精神科医療施設において、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人や家族との関わりを通して、援助者としての自己を振り返りながら、専門看護師としてケアとキュアを統合した高度な看護判断、看護実践を展開するための能力を習得する。	
			精神看護学実習Ⅳ (サブスペシャリティ実習１：慢性期精神看護　直接・間接ケア実習)	精神科病棟において、慢性期、長期入院となっている人や家族の抱える問題や苦悩について理解を深め、回復促進や退院、地域移行に向けた直接ケアおよび間接ケアを実践し、慢性期、長期入院の課題の中での専門看護師の役割や創造的な看護のあり方について探求する。	
			精神看護学実習Ⅴ (サブスペシャリティ実習２：司法精神看護(医療観察法領域の看護)　直接・間接ケア実習)	医療観察法における医療において、疾患と重大な他害行為という二重のスティグマをもつ対象者や家族の抱える問題や苦悩について理解を深め、重大な他害行為を治療・ケアの契機とする多職種チームアプローチに参加する中で、対象者の回復に向けた直接ケアおよび間接ケアを実践し、多職種の間での専門看護師の役割や司法精神看護のあり方について探求する。	
	研究		看護研究Ⅱ	学位論文の研究計画立案のために必要な知識・技術を習得する。 研究計画書および学術論文作成のために必要な知識・技術を習得する。	
			課題研究	特論、演習および実習で学び得た知識と技術をもとに、専門領域の研究テーマを導き出し、看護の質向上に寄与する基礎的臨床研究能力を習得する。	
			特別研究	研究論文の作成を通して、研究の基礎的能力を養う。	